

授業科目（ナンバリング）	薬理学Ⅲ（末梢-2）（NE318）			担当教員	福森 良		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本講義では、末梢疾患の治療薬を学ぶ。まず消化器系および呼吸器系の各臓器の生理機能を理解した上で、消化器系疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、血液系疾患、炎症性疾患および悪性腫瘍の①病態、②治療薬の作用メカニズムと③副作用を学び、理解する。							①②③
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	（１）消化器系疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、血液系疾患、炎症性疾患および悪性腫瘍の病態を説明できる。（２）消化器系疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、血液系疾患、炎症性疾患および悪性腫瘍に対する治療薬の薬理作用および副作用を説明することができる。				定期試験	100%	
情報収集、 分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決 力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験の成績により評価する。 全講義時間の3分の1を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。							
授 業 の 概 要							
本講義では、消化器系疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、血液系疾患、炎症性疾患および悪性腫瘍に対する治療薬の薬理作用機序や副作用について講義する。また、新たに上市された最新の治療薬についての医薬品情報も紹介する。教科書、プリント、パワーポイントなどを用いて授業を進める。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：新しい疾患薬理学（岩崎克典/徳山尚吾編集；南江堂） 参考書：図解薬理学（鍋島・井上編集；南山堂）、薬理学（金子周司編集；化学同人）、 New 薬理学第5版（田中・加藤編集；南江堂）、薬がみえる vol.1-3（Medic Media） 指定図書：新しい疾患薬理学（岩崎克典/徳山尚吾編集；南江堂）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
末梢神経系の疾患を中心軸に据え、その病態を背景に、①治療薬名と作用機序および②副作用を関連付けて学修しましょう。分からない所が分っている学修態度が望まれる。「答え」を覚えるより、「問題を作れる」能力を養おう。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1 2	糖尿病治療薬	糖尿病の病態を理解し、糖尿病治療薬の作用ならびに副作用を学ぶ。	教科書 p396～400 を予習しておく	669
3	脂質異常症治療薬	脂質代謝、および脂質異常症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	教科書 p400～406 を予習しておく。	670
4	高尿酸血症治療薬	プリン代謝、および高尿酸血症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	教科書 p407～410 を予習しておく。	671
5	貧血治療薬	血液・造血系、および貧血の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	教科書 p237～247 を予習しておく。	643
6	抗血栓薬	血液凝固系、および血栓症・塞栓症の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	教科書 p237～242, p249～258 を予習しておく。	610 642
7 8 9	<u>炎症およびアレルギー治療薬</u> ①抗炎症薬 ②ステロイド薬 ③抗アレルギー薬 ④抗リウマチ薬	炎症とは何か、体温調節・痛みの発現は如何なる調節機構を介しているのかをまず理解する。解熱性鎮痛薬、抗炎症薬、ステロイド薬および抗アレルギー薬をあげ、その作用機序ならびに副作用を学ぶ。また、リウマチ疾患の病態を学びその治療薬の作用機序を学ぶ。	教科書 p325～353 を予習しておく。	618, 619, 621, 630, 634
10 11	<u>消化器系疾患の治療薬</u> ①消化性潰瘍治療薬 ②催吐および嘔吐薬	消化器系潰瘍を中心にその病態を理解し、抗潰瘍薬作用機序および副作用を学ぶ。また嘔吐の発現機構を理解し、催吐薬/制吐薬の作用を学ぶ。	教科書 p263～265, p271～278 を予習しておく。	668, 666
12	<u>呼吸器系疾患治療薬</u> ①気管支喘息治療薬	呼吸の生理機構ならびに気管支喘息の病態を理解し、その治療薬の薬理作用を学ぶ。	教科書 p208～220 を予習しておく。	655, 668
13	<u>呼吸器系疾患治療薬</u> ②鎮咳薬/去痰薬 ③呼吸興奮薬	咳の発現機構を理解し、鎮咳薬/去痰薬の薬理作用を学ぶ。また、呼吸抑制を起こした事態で使用する呼吸興奮薬の種類とその作用を学ぶ。	教科書 p301～312 を予習しておく。	658, 668
14 15	悪性腫瘍治療薬	悪性腫瘍の病態を理解し、その治療薬の薬理作用機序を学ぶ。	教科書 p419～442 を予習しておく。	714 715
16	定期試験	筆記試験（90分）		

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、薬学専門科目のシラバス巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。